

行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569

東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 馬場研究室内
Tel 03-5421-8739 (直通)
Fax 03-5421-8796

「データの科学」と林知己夫著作集

村上征勝

「データによって複雑な現象を理解する」という「データの科学(Data Science)」を、亡くなられた林知己夫先生が提唱されるようになったのは1992年ころからである。統計のメーカであると同時に統計のユーザであるとの基本姿勢を堅持し、実証分析の重要性を主張された林先生の現象理解に関する思想は、「統計数理」(1947)、「行動科学」(1972)、「データ解析・分類」(1979)、「調査の科学」(1984)という型で発展し、「データの科学」へと至ったことは広く知られている。

しかし56年に及ぶ研究生活の中で、先生が具体的にどのようなデータ分析に取り組み、その取り組みの中でどのようなことが契機となり現象理解の考え方が発展していったのか、またその間にどのような人々との交流があり、それがどのような型で先生の考え方に影響を与えたのかということになると、多くの人は断片的な知識しか持ち合わせていないのではないかと思われる。

ただ、これはある意味で致し方ないことといえよう。というのは、林先生の書かれたものはあまりにも数が多く、その上それらが多岐の分野にわたっているため、私たちには自分の関係する分野以外のものについては、どこに何を書かれておられたのか把握するのが難しいからである。実際に先生が書かれたものは、統計数理研究所に入られた1946年12月から亡くなられた2002年8月までの55年8ヶ月の間に、著書をはじめとして、論文、研究報告、随筆、新聞記事、書評など実に1500編近くになる。56年間の間、平均すると毎年約27編、毎月2編以上書かれていたことになる。このような膨大な著作の中から、先生の現象理解に関する考え方の発展や、データ分析に関する思想や哲学を理解する上で重要と思われるものを集めた、「林知己夫著作集」を刊行する計画が進められている。

この著作集の編集作業は、2002年の春に先生の許可を得て始められた。先生が入院される2月ほど前である。それまで体調を崩され勉強会を休まれていた先生が久しぶりに出席され、「さあ、またこれからだ」とおっしゃられた時期でもあり、また先生は常日頃「生涯現役」と言っておられたので、著作集の出版は許可が得られない恐れは十分あった。しかし、「先生の書かれたものはあまりにも多くかつ多岐にわたっているので著作集としてまとめ、多くの研究者の便宜を図りたい」旨お願いしたところ、しばらく考えられた後で「いいだろう」というお返事を頂いた。今にして思うと、体調を回復されたようにみえた先生も、御自身の健康に不安を感じられておられたのではという気がしてならない。

さて編集作業は、先生が指名されたワーキンググループでまず編集の準備を行い、その後編集委員会を立ちあげそこで行うということで開始された。当初、収録する著作については先生に選んでいただき、また編集委員も指定していただくことになっていたが、突然の入院、そして収録する著作や編集委員に関して何のご指示のないままお亡くなりになられたため、ワーキンググループが編集作業を継続することとなった。

現在(4月末の時点)、1500編近くの先生の著作の中から、英文で書かれたものと、すでに本となって出版されているものを除き、著作集に収録すべきもの560編あまりを選択し、数量化理論、データ解析、科学基礎論、社会調査、市場調査、医学、林学、動物調査、防災、教育などの分野別にまとめる作業を行っている。いまのところ、著作集は15～16冊程度で、総ページ数は4500ページ程度になる予定である。先生の命日である8月6日までには刊行し、出来るだけ多くの会員の方に読んでいただきたいと願っている。

32回大会へのご参加 お待ちしております

3月に発行致しました第1号通信でもお知らせ致しましたとおり、2004年9月16日(木)～18日(土)の3日間、日本行動計量学会第32回大会を青山学院大学 相模原キャンパスで開催する運びとなりました。相模原キャンパスは、2003年度に新設されたばかりの新しいキャンパスで、新宿から約1時間の所に位置し、環境には非常に恵まれております。今大会では、もう一度この学会の原点に返り、現象の本質の把握、目的に即した定式化を重点に、社会現象、生理現象、物理現象など幅広い分野からのテーマを募集します。また、既に申込みを頂いている方もいらっしゃると思いますが、当学会の特色が醸し出されるようなテーマを多数お持ちの際は、特別セッションとして大会を盛り上げて頂きたいと思っておりますのでご連絡お待ちしております。参加締め切りは6月18日(金)です。詳しくは大会ホームページ(<http://bio-lab.it.aoyama.ac.jp/bsj2004>)をご覧ください。皆様方の発表と参加をお待ち致しております。

第32回大会実行委員長 二宮理恵

日本行動計量学会第32回大会 チュートリアルセミナー 離散データの記述的多変量解析法

社会科学・行動科学においては、社会調査を始めとし、離散値を持つ多変量データの分析法がしばしば利用される。このチュートリアルでは、記述的な多変量統計解析の手法、特に離散データの情報縮約の方法を中心に、多次元尺度法も含めて解説する。

日時：2004年9月15日(水) 10:30～17:10

(10:00 受付開始)

場所：青山学院大学 青山キャンパス(表参道駅より徒歩約5分) 総研ビル6階14605号室(演習室)
大会会場の相模原キャンパスと異なりますので、ご注意ください。詳しい所在地は、同封の別紙をご参照ください。

セミナー講師：大津起夫(大学入試センター研究開発部)・足立浩平(立命館大学文学部)

定員：50名

参加費：会員2,000円、非会員4,000円

申し込み方法：学会Webページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/bsj/tutorial2004.html>)の申し込みフォームよりお申し込みください。

プログラム：

0) 記述、予測、因果(大津, 10:30～10:45)

制御された実験と観察研究の違い

観察研究にもとづく因果同定の難しさ

限界を踏まえたうえでの記述の効用

1) 対応分析(パターン分類の数量化)とその後継(大津, 10:45～12:30)

1-1) 対応分析：イントロ

1-2) 手法の特性と問題点(馬蹄形問題)

1-3) Goodmanの相関モデル、連関モデル

1-4) グラフィックスの利用(フリーソフトウェアを利用した分析結果の視覚化)

昼休み(12:30～13:30)

2) 等質性分析による離散データの数量化(足立, 13:30～15:30)

2-1) 数量化法3類と多重対応分析と等質性分析：イントロ

2-2) 等質性分析の原理

2-3) 種々の尺度混在データの主成分分析

2-4) 幾つかの適用例

休憩(15:30～15:40)

3) 多次元尺度法とダイナミックグラフィックス(大津, 15:40～17:10)

3-1) 多次元尺度法の紹介

3-2) 計量モデルと非計量モデル

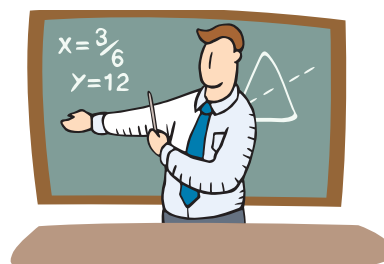
3-3) 個人差の表現法

3-4) ダイナミックグラフィックスの利用(GGobiの紹介)

主催：日本行動計量学会運営委員会

問い合わせ先：企画担当 菊地賢一(東邦大学)

kikuchi@is.sci.toho-u.ac.jp



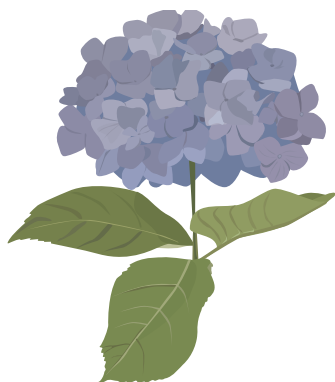
第82回行動計量シンポジウム 潜在変数モデルにおける最近の発展 (Recent Developments in Latent Variables Modeling)

企画者：和合 肇（名古屋大学）、繁樹算男（東京大学）

第82回行動計量シンポジウムが、平成16年8月25日（水）、26日（木）に、東京大学駒場キャンパス数理科学研究棟で開催されます。因子分析、共分散構造分析、項目反応理論などは、潜在変数を導入した階層モデルとして捉えることができます。本シンポジウムは、その統一的な観点から、モデルの多様化やモデル選択の方法、ベイズ的アプローチの適用、数値的な解の改良等の点について最近に達成された成果に焦点を当てた講演を中心とします。

講演者として、Peter Bentler (UCLA)、Wim van der Linden (Univ. of Twente)、Hampursum Bozdogan (Univ. of Tennessee)、Hedibert F. Lopes (Univ. of Chicago) などが、予定されています。また、海外からの研究者のほかに、最近の成果を発表して下さる方を募集しています。このシンポジウムは、科学研究費（代表者：和合 肇）によって、支援されていますが、国内の発表者に対して、旅費の補助も可能です。関心のある方は、kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jpまで連絡ください。

最新のプログラムの更新に関しては、ホームページ <http://bayes.c.u-tokyo.ac.jp/lvmsympo.html> をご覧ください。



2003年度小グループ研究会・ 地域部会の活動記録

☆好みの計量研究会

代表者：芳賀 麻誉美

本年度は、メールによる情報交換と定例研究会を柱に活動した。メーリングリストでは420通のメールが交換され、定例研究会は8回開催、16の報告があった。さらに今年は、公開勉強会を4回企画し、のべ150名を超える参加者を集めた。研究会の成果報告会として、第31回日本行動計量学会大会では特別セッション3つを企画、計15演題を報告した。研究会活動を通し結実した個々人の研究成果は、関係学会各誌に投稿、掲載された。定例研究会、勉強会の内容は下記の通り。

●定例研究会●

開催場所：女子栄養大学駒込校舎生涯学習センター
開催時間：18:00～21:00

<第1回研究会> 4月18日（金）

1. 小島隆矢「CSポートフォリオ再考」
2. 林 俊克「お客さまの潜在ニーズに適合した化粧品開発の試み」

<第2回研究会> 5月16日（金）

1. 互 恵子「女性性・関係性・感受性尺度の作成と化粧行動の関連」
2. 仁科 健「感性データの個人差分析～品質情報解析概要」

<第3回研究会> 6月13日（金）

1. 星野崇宏「傾向スコアを利用したWeb調査の訪問調査への補正一日経リサーチの調査データから」
2. 芳賀麻誉美・水野 誠「人を作る製品開発～選好形成過程の定量化とその利用：製品・パッケージ・経験 etc～」

<第4回研究会> 7月11日（金）

1. 松村真宏「対話型コミュニケーションにおける影響伝搬モデル」
2. 大澤幸生「チャンス発見研究におけるチャンス発見：シナリオ創発」

<第5回研究会> 10月3日（金）

1. 庄司裕子「あいまいな思考が精緻化される過程をいかにとらえるか」
2. 山川義介「商品の最適価格を設定する手法「PSM」の研究」

<第6回研究会> 11月21日(金)

1. 水野 誠「新製品導入の評価：マーケティング分野からの取り組み、POS データ分析」
2. 芳賀麻誉美「新製品導入の評価：官能評価的な取り組み、試食実験から」

<第7回研究会> 12月19日(金)

1. 小島隆矢「SEMとGMのフリーソフトの紹介～新刊書籍の紹介含む」
2. 天辰次郎「コンジョイント分析の発展的応用：ハイブリッド・コンジョイント分析」

<第8回研究会> 1月9日(金)

1. 石原聖子「買い替え経験に基づく消費者セグメンテーションと、新製品の受容性予測手法の検証」
2. 黒木 学「k-planes法による非階層的クラスタリングとその応用」

● 勉強会 ●

開催場所：女子栄養大学駒込校舎生涯学習センター
開催時間：13：00～17：00

<第1回勉強会> 6月25日(金)

永田 靖「因果分析を学ぼう！その1：因果分析入門～基礎からグラフィカル・モデリング周辺まで」

<第2回勉強会> 8月22日(金)

狩野 裕、芳賀麻誉美「因果分析を学ぼう！その2：SEMと因果分析」

<第3回勉強会> 9月19日(金)

廣野元久「因果分析を学ぼう！その3：グラフィカル・モデリング」

<第4回勉強会> 2月14日(土)

堀 啓造、服部 環「因子分析再考」

☆地理学における多次元尺度構成法の応用

代表者：今泉 忠

活動報告

地理学における多次元尺度構成法は1960年代から利用されていたが、1990年代はあまり活用されていなかった。しかし、非対称尺度構成法の発展、地理的距離のみではなく、時間的距離や認知距離への応用などで着目されている。これを、応用の面から研究し広く情報を提供することを計画しWebページ開設、研究報告会開催活動を行った。

活動内容

1. Web ページ開設

研究分野や応用に関する情報を提供するためにWeb ページを開設、運用している。

url <http://stat.tama.ac.jp/Society/MDSandGEOGRAPHY/>

提供情報項目

News

応用例題

研究論文

関連した研究者サイト

関連書籍・ソフト

ページアクセス件数 1250 件程度

2. 研究報告会開催

平成16年3月1日(月)に多摩大学ルネッサンスセンター(品川インターシティ)において研究報告会を行った。報告件数は4件で出席者数は15名であった。

各報告についての質疑があった。また、地理学で扱うデータについての、その特徴に質疑があった。研究報告タイトル

(1) マーケティングデータの分析について

今泉 忠(多摩大学)

(2) 非対称 MDS モデルによる分析について

岡太彬訓(立教大学)・今泉 忠(多摩大学)

(3) 認知地図の空間分析

若林芳樹(東京都立大学)

(4) 都道府県別方言データの MDS 分析

杉浦芳夫(東京都立大)・井上史雄(東京外国語大)

☆岡山地域部会

代表者：森 裕一

岡山県およびその近隣地域の行動計量学に関する研究と研究者間の人的交流を積極的に行うべく、2年目である本年度も下記のように計5回の研究会(第5～9回)を開催した。昨年と同様、研究会は、岡山統計研究会との共催とした。

第5回(2003.5.10、医療福祉分野におけるデータ解析の実践)は、中村 忠先生(岡山理科大)と野澤亮平先生(川崎医療福祉大)にコーディネイトしていただき、統計計算の理論の講演と病院や福祉施設のデータ処理に関する講演4件と総合討論を、第6回(2003.8.30、臨床心理学研究とCMC)は、福森 護先生(中国学園大)にコーディネイトしていただき、臨床関係4件、CMC 関係2件の講演と総合討論を行った。第7回(2003.10.4、地域・地理・図形情報とデータ解析)は、垂水共之先生(岡山大)と私が世話人となり、第79回行動計量シンポジウムとして

開催した。GISを中心として、地域メッシュ、地域分析、空間解析など、それぞれの立場で活躍されている6人の研究者の方に講演をいただいた。詳細は、和文誌、会報(99号)、http://mol61.soci.ous.ac.jp/bsj_okayama/79/index.htmlなどを参照されたい。第8回(2003.11.15, Modern Statistical Visualization)は、Antony UNWIN先生(Augsburg大)を招き、「Blending Statistics and Graphics」というタイトルで、講演をいただいた。最後の第9回(2004.3.13, 地域データの分析手法とその応用)では、昨年度と同様、若手を育てることを目的に、院生を中心とした学生セッションを設け、学生8名の発表に対して、優秀賞1名とプレゼン賞1名を表彰した。また、全体レクチャーでは、坂本 亘先生(大阪大)に講演をお願いした。

岡山地域部会のWebページは、http://mol61.soci.ous.ac.jp/bsj_okayama/で、研究会の予定に加え、各講演の発表資料なども公開している。

☆東北行動計量学研究会

代表者：海野 道郎

今年度は、2004年1月24日に、社会的勢力・ジェンダーなど社会的な不平等をめぐる問題の研究法(社会調査法、実験室実験法、データ分析法)に関する研究例会(特別講演会)を、科学研究費プロジェクト「学術資源学の構想」(研究代表者：原 純輔・東北大学教授)および21世紀COEプログラム社会階層と不平等研究教育拠点(拠点リーダー：佐藤嘉倫・東北大学教授)との共催で開催した。この研究会での報告者と報告題目は以下のとおりである。

坂田桐子(広島大学助教授)

「ジェンダーと社会的行動に関する研究における方法論上の問題」

松田光司(九州大学助手)

「ハンターの調査データの復元と二次分析」

また、上記2つの研究プロジェクト・研究プログラムとの共催によるワークショップを、以下のよう

に3回開催した。これらは、社会調査データの分析法に関連する内容のものでもある。

2003年12月16日 石川由香里(活水女子短期大学助教授)

「アルコール依存症家族と再生産問題」

2003年12月19日 白波瀬佐和子(筑波大学社会学系助教授)

"Married Women's Economic Status in the Household in Japan in Cross-national Perspective."

2004年3月1日 安田雪(特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンタ、GBRC社会ネットワーク研究所所長)

「高卒就職志望者の社会階層—社会的埋め込みの原因と結果」

昨年度から会員が自主的に開催している勉強会も、不定期ながら、今年度も継続して実施してきている。

以上の活動に関しては、東北行動計量学研究会のウェブサイト(http://www.sal.tohoku.ac.jp/behavsci/WorkGroups/BehavioralScience/index_j.html)で広報をしている。

運営委員会からのお知らせ

★2004年度小グループ研究会・地域部会応募結果

2004年度小グループ研究会として次の3つの研究会(継続3)が採択されました。

「地理学における多次元尺度構成法の応用研究部会」
(代表：今泉 忠、連絡先：多摩大学経営情報学部、〒206-0022 多摩市聖ヶ丘4-1-1、Tel: 042-337-7157、imaizumi@tama.ac.jp)

「岡山地域部会」(代表：森 裕一、連絡先：岡山理科大学総合情報学部社会情報学科、〒700-0005 岡山市理大町1-1、Tel & Fax: 086-256-9652、mori@soci.ous.ac.jp)

「東北行動計量学研究会」(代表：海野通郎、連絡先：東北大学大学院文学研究科行動科学研究室、〒980-8576 仙台市青葉区川内、Tel: 022-217-6035、Fax: 022-217-5972、umino@sal.tohoku.ac.jp)



日本行動計量学会主催 第7回春の合宿セミナー報告

2004年3月25日、26日の2日間、長岡技術科学大学において、第7回春の合宿セミナーが日本テスト学会の協賛を得て開催されました。全国から総勢170名を超える参加者があり、盛況のうちに無事終了いたしました。

今回のセミナーでは、「知識社会における情報・統計科学」というテーマを設け、知識時代に対応した新時代の情報・統計技術に焦点を絞り、統計科学、情報科学、人工知能、心理計量学の当該分野でご活躍の方々にご講演いただきました。本セミナーでは、参加者に占める学生の割合が例年より非常に少なく(24人)、一方、企業等で実務を担当されている非会員の参加者が非常に多い(96名)、という特徴が見られました。テーマをやや実務よりに設定したことと、講演内容を、手法の基本的な説明よりも適用事例を中心としたものとするよう講師の皆さまにお願いしたことによるものであらうと考えています。

なお、本セミナー開催にあたっては、株式会社数理システム、アール・プロメトリック株式会社、日本データパシフィック株式会社、SAS Institute Japan株式会社、マイクロソフト株式会社、株式会社実務教育出版、株式会社現代数学社、HRR株式会社、株式会社BSNアイネット、社団法人日本マーケティング・リサーチ協会、株式会社ウイネット、株式会社ハンモック、エス・ピー・エス・エス株式会社から多くの御賛助をいただきました。お礼申し上げます。最後になりましたが、本セミナーの運営にあたって多大な労力をいただいた実行委員会の諸氏には深く感謝の意を表します。

実行委員会委員長 植野真臣



関連学会等カレンダー

※注意：本コーナーの情報は、幅広い専門分野にわたる会員の皆さまに、なるべく多くの催し物の存在をお知らせするために編集担当側で収集・要約したものです。プログラムや参加方法については、必ず各催事末尾に掲載の「照会先」にご確認下さい。

<学会大会等>

☆ 第13回日本健康教育学会

会 期：2004年6月3日(木)～5日(土)
会 場：獨協医科大学創立30周年記念館
(栃木県壬生町)

学会長：武藤孝司(獨協医科大学教授)

メインテーマ：エビデンスに基づく健康教育・ヘルス
プロモーション

プログラム：特別講演「EBMとは何か」他

照会先：学会 Web ページ

URL: <http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/pub/health.html>

☆ 日本マーケティング・サイエンス学会

第75回研究大会

会 期：2004年6月11日(金)、12日(土)

会 場：福岡大学 商学部(福岡市城南区七隈8-19-1)

照会先：日本マーケティング・サイエンス学会事務局
〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-27

中之島センタービル31F

Tel: 06-6448-7888, Fax: 06-6448-1073

E-mail: JIMS_Osaka@yahoo.co.jp

URL: http://base.econ.osaka-u.ac.jp/~nakajima/jims/jims_idx.htm

☆ 第23回日本シミュレーション学会大会

(日本行動計量学会協賛行事)

会 期：2004年6月16日(水)、17日(木)

会 場：早稲田大学 理工学部55号館
(東京都新宿区大久保3-4-1)

照会先：日本シミュレーション学会事務局
(担当：澤田)

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6

相互麹町第3ビル6階

Tel: 03-3239-4738, Fax: 03-3239-4714

E-mail: simul@pp.ij4u.or.jp

URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jssst/>

☆ 日本社会心理学会第45回大会

会 期：2004年7月18日(日)、19日(月・海の日)

会 場：北星学園大学(札幌市厚別区大谷地西2-3-1)

照会先：(株)国際文献印刷社 JSSP2004ヘルプデスク
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8

Tel: 03-3362-9441, Fax: 03-3368-2822

E-mail: jssp-webpost@bunken.co.jp

URL: <http://db1.wdc-jp.com/jssp/conf/jssp2004/>

☆ 第 30 回日本看護研究学会学術集会

会 期：2004 年 7 月 29 日（木），30 日（金）
 会 場：大宮ソニックシティ
 （さいたま市大宮区桜木町 1-7-5）
 メインテーマ：「看護におけるヒューマンケアの実現」
 プログラム：シンポジウム「EBN を実践する鍵一つく
 る・さがす・つかう」他
 照会先：第 30 回日本看護研究学会学術集会事務局
 〒 204-8575 東京都清瀬市梅園 1-2-1
 国立看護大学校内
 Tel & Fax: 0424-95-2583
 E-mail: jsnr30@ncn.ac.jp
 URL: <http://kango30.umin.jp/>

☆ 第 36 回日本医学教育学会総会及び大会

会 期：2004 年 7 月 30 日（金），31 日（土）
 会 場：高知県立県民文化ホール（高知市本町 4-3-30）
 基調テーマ：「医学教育の一貫性：入学選抜から生涯教
 育まで」
 プログラム：シンポジウム 1) 入学選抜における人間
 性・態度評価は可能か？ 2) コア・カリキュラム：
 導入、蹉跎、飛躍 3) プライマリ・ケア研修と生涯
 学習 他
 照会先：高知大学医学部附属病院総合診療部内
 第 36 回日本医学教育学会事務局
 〒 783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
 Tel: 088-880-2204, Fax: 088-880-2738
 E-mail: mededu@med.kochi-u.ac.jp
 URL: http://www.kochi-ms.ac.jp/~hc_gnrlc/mededu36.htm

☆ 日本認知科学会第 21 回大会

会 期：2004 年 7 月 30 日（金）～8 月 1 日（日）
 会 場：日本科学未来館
 （東京都江東区青海 2 丁目 41 番地）
 照会先：〒 135-0046 東京都江東区青海 2-41-6
 臨海副都心センター 産業技術総合研究所
 サイバーアシスト研究センター内
 大会実行委員会事務局
 E-mail: jcsc04-org@cogsci.c.u-tokyo.ac.jp
 Tel: 03-3599-8215（担当：前田），Fax: 03-5530-2067
 URL: <http://cogsci.c.u-tokyo.ac.jp/JCSS2004/>

☆ 日本テスト学会第 2 回大会

会 期：2004 年 8 月 28 日（土），29 日（日）
 会 場：東京工業大学 大岡山キャンパス 西 9 号館
 照会先：大会実行委員会事務局
 〒 152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1
 東京工業大学 大学院社会理工学研究科 前川研究室
 Tel & Fax: 03-5734-3242
 E-mail: jart-staff@ms.hum.titech.ac.jp
 URL: <http://www.ms.hum.titech.ac.jp/JART2004/>

☆ 2004 年度統計関連学会連合大会

日本計量生物学会，日本統計学会，応用統計学会
 連合大会

協賛：日本計算機統計学会，日本分類学会，日本
 行動計量学会

会 期：2004 年 9 月 3 日（金）～6 日（月）
 会 場：富士大学（岩手県花巻市下根子 450-3）

参加費（予定）：

会員（協賛学会会員を含む）参加費：4,000 円
 学生参加費：2,000 円，非会員参加費：10,000 円
 報告集のみ：4,000 円
 チュートリアル会員参加費：2,000 円
 チュートリアル学生参加費：1,000 円
 チュートリアル非会員参加費：4,000 円

内 容：市民講演会「統計データが示す地域経済活性
 化の方策」，チュートリアルセッション「データマ
 ネージメントのプロセスとシステム—臨床試験を
 例として—」，コンペティション・セッション，企
 画セッション，一般講演セッション他
 企画セッション：各オーガナイザの責任で企画する
 セッション。お問い合わせは各オーガナイザへ。
 （以下、I.D. 題名 オーガナイザの順）

K01* ゲノムデータへの統計学の挑戦 江口真透，松
 浦正明

K02* 高次元データ解析の理論と応用 若木宏文

K03* 統計学とマーケティング 照井伸彦

K04* 効力比による実験データの解析 高橋行雄

K05* 医薬品開発における QT 延長の統計解析 渡邊
 裕之

K06* 統計学と保険 国友直人

K07* 臨床評価における民族差の評価方法について
 鍵村達夫

K08* DNA アレイデータ解析に関する統計的諸問
 題 2 樋口知之，井元清哉

K09* 官庁統計における新たな潮流—追跡調査，パ
 ネルデータ— 會田雅人

K10* Categorical Data Analysis 竹村彰通

K11* 統計科学における新しい分野の開拓の試み—
 回顧と展望— 藤越康祝

K12* ボラティリティ変動モデル 森棟公夫

K13* 統計学と会計学 竹内恵行

K14* 多重比較，多重決定方式とその関連分野 広津
 千尋，鎌倉稔成

K15* 統計教育—カリキュラムの国際比較— 渡辺美
 智子，村上征勝，二宮智子

照会先：連合大会実行委員会

URL: <http://www.ajss.gr.jp/2004/index.html>

☆ 日本 OR 学会 2004 年秋季研究発表会

会 期：2004 年 9 月 8 日（水），9 日（木）
 会 場：東北大学川内キャンパス（仙台市青葉区川内）
 実行委員長：石川明彦（岩手大学）
 照会先：鈴木賢一（東北大学大学院経済学研究科）
 Tel & Fax: 022-217-6281
 E-mail: ksuzuki@econ.tohoku.ac.jp
 URL: <http://www.dais.is.tohoku.ac.jp/~or2004f/index.html>

☆ 日本心理学会第 68 回大会

会 期：2004 年 9 月 12 日（日）～ 14 日（火）
 会 場：関西大学 千里山キャンパス
 社会学部学舎（第 3 学舎），100 周年記念会館など
 照会先：大会準備委員会事務局
 〒 564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
 関西大学社会学部研究棟
 日本心理学会第 68 回大会準備委員会
 E-mail: jpa68@soc-3.soc.kansai-u.ac.jp
 Tel & Fax: 06-6387-4007
 URL: <http://psychology.soc.kansai-u.ac.jp/>

<シンポジウム・研究集会・講演会等>

☆ 第 20 回ファジィシステムシンポジウム
(FSS2004)

(日本行動計量学会協賛行事)

日 時：2004 年 6 月 2 日（水）～ 5 日（土）
 会 場：北九州学術研究都市，
 九州工業大学大学院生命体工学研究科
 （若松キャンパス：北九州市若松区ひびきの 2-4）
 主 催：日本知能情報ファジィ学会（SOFT）
 共 催：国際ファジィ学会（IFSA）
 大会委員長：山川 烈（九州工業大学）
 趣 旨：2004 年はファジィシステムシンポジウム開催
 第 20 回目、Zadeh 教授がファジィ概念を発見して
 から 40 年の節目に当たる。これを記念して、ファ
 ジィ誕生の 40 年を振り返るとともに、知能、情報
 とファジィの新しいパラダイムの進化と融合によ
 る、さらなる発展を見据えた議論の場を提供する。
 招待講演：Professor Lofti A. Zadeh (UCB)
 平行開催（6 月 2 日，3 日）：International Workshop on
 Fuzzy Systems & Innovational Computing (FIC2004)
 照会先：和多田淳三（プログラム委員長）
 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科
 〒 808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの 2-7
 Tel & Fax: 093-692-5179
 E-mail: junzow@osb.att.ne.jp
 URL: <http://w3-itss.kct.ac.jp/soft/fss2004/>

☆ 日本医療情報学会シンポジウム 2004
(第 8 回春季学術大会)

日 時：2004 年 6 月 10 日（木），11 日（金）
 会 場：メルパルク広島
 代表者：石川 澄（広島大学医学部附属病院）
 照会先：学会事務局
 URL: <http://jami.umin.ac.jp/>
 E-mail: jami-office@umin.ac.jp

☆ ISM シンポジウム「環境科学と統計科学の新たな
融合—環境データの質の向上に貢献する統計科
学—」

(日本行動計量学会協賛行事)

日 時：2004 年 9 月 15 日（水）
 会 場：統計数理研究所 講堂
 （東京都港区南麻布 4-6-7）
 主 催：統計数理研究所

趣 旨：「環境科学と統計科学の新たな融合」という基
 本方針に基づいて、平成 14 年度は「環境科学は統
 計科学に何を期待するか，統計科学は環境科学に
 何ができるか」、平成 15 年度は「環境マネジメン
 トにおける統計科学の役割および貢献」の如く年
 度方針を定めシンポジウムを開催してきた。今回、
 平成 16 年度は「環境データの質の向上に貢献する
 統計科学」として年度展開を図る。平成 14 年度に
 おいては両分野の新たな融合についての概念構成
 を試み、平成 15 年度において特に両分野の環境行
 政との関わりを接点とした新たな融合を試みた。
 これら一連の流れの中にあって本年度は主に環境
 に関わる企業活動の中に両分野の接点を見だし
 両分野の新たな融合を試みようとするものである。

照会先：統計数理研究所 金藤浩司

URL: <http://www.ism.ac.jp/>

E-mail: kanefuji@ism.ac.jp

<日本で開催される国際会議等>

☆ 日本看護科学学会第 5 回国際看護学術集会

Japan Academy of Nursing Science (JANS),
Fifth international Nursing Research Conference

会 期：2004 年 8 月 29 日（日）～ 31 日（火）
 会 場：ビックパレットふくしま（郡山市，29 日），
 裏磐梯ロイヤルホテル（30，31 日）
 テーマ：「看護現象と研究デザイン：新しい研究方法の
 探求」
 プログラム（抜粋）：会長講演：「新しい看護研究方
 法を求めて」中山洋子（福島県立医科大学看護学部），
 駅伝シンポジウム「看護現象から研究デザイン
 へ」，ワークショップ [テーマ 1：質的研究，テ
 マ 2：看護現象の検証プロセス，テーマ 3：尺度開
 発，テーマ 4：アクション・リサーチ，テーマ 5：
 介入研究] 他 ワークショップ参加は会員のみに

照会先：

〒 113-0033 文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201

日本看護科学学会事務局

Tel: 03-5805-1280, Fax: 03-5805-1281

E-mail: jans-office@umin.ac.jp

URL: (学会) <http://plaza.umin.ac.jp/~jans/>

(集会用) <http://www2.ims-plaza.co.jp/jans/index.html>

☆ SCIS & ISIS 2004: Joint 2nd International Confer-
ence on Soft Computing and Intelligent Systems
and 5th International Symposium on Advanced
Intelligent Systems

(日本行動計量学会協賛行事)

会 期：2004 年 9 月 21 日（火）～ 24 日（金）
 会 場：慶應義塾大学 理工キャンパス
 トピックス（抜粋）：Artificial Intelligence, Bayesian
 Networks, Fuzzy Logic, Fuzzy Reasoning, Machine
 Learning, Neural Networks, Neuro-Fuzzy, Probabilistic
 Reasoning

照会先：URL: <http://scis2004.t-kougei.ac.jp/>

日本知能情報ファジィ学会

URL: <http://www.j-soft.org/>

公募・求人情報

本コーナーでは計量的手法や統計学、社会調査等と関係が深いと思われる公募を中心に抜粋して紹介しております。

なお、研究者の公募情報は、例えば「研究者人材データベースシステム (JRECIN)」で参照することができます。URLは下記の通りです。ご活用をお勧めします。

<http://jrecin.jst.go.jp/>

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。

以下には上記JRECINに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。原則として、本学会に直接広報依頼のあった公募については詳細に情報を記載します。

☆ 山梨大学大学院 医学工学総合研究部・教育部

1. 所属：大学院医学工学総合研究部持続社会形成専攻＜社会システム系＞
2. 募集人員：助手 1 名
3. 着任時期：2005 年 4 月 1 日またはそれ以前
4. 専門分野：オペレーションズ・リサーチ、応用統計学、経営工学、情報システム工学などのいずれかを専門として、環境問題を念頭において社会・経済・経営などの現象や課題に対して定量的・システムのなとりくみができる方。
5. 担当科目：学部学生を対象としたコンピュータ系演習科目（コンピュータ利用の初歩、C言語、HTML、UNIX系OSの初歩的扱いなど）、基礎統計学の演習など
6. 応募締め切り日：2004 年 6 月 30 日（水）消印有効
7. 照会先：〒 400-8511 甲府市武田 4-3-11
山梨大学大学院 医学工学総合研究部・教育部
持続社会形成専攻 北村真一
Tel & Fax: 055-220-8691
E-mail: skita@js.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.js.yamanashi.ac.jp/koubo/job04-1.html>

☆ 筑波大学 システム情報工学研究科

1. 部署：経済システム（計算機実習・基礎数学・統計学あるいは基礎的なミクロ経済学などを担当できることが望ましい）
2. 人員：講師 1 名
3. 所属：システム情報工学研究科 社会システム工学専攻（旧社会工学系 社会経済システム分野グループ）
4. 採用時期：2005 年 4 月 1 日予定
5. 応募締切：2004 年 6 月 30 日
6. 照会先：〒 305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学 システム情報工学研究科
社会システム工学専攻 教授 金子 守
Tel: 029-853-5180（直通）
Fax: 029-855-3849（事務室）

E-mail: kaneko@sk.tsukuba.ac.jp

URL: <http://www.sk.tsukuba.ac.jp/ipps/dFaculty/dJobs/index.html>

☆ 大阪大学 大学院基礎工学研究科

1. 部署：システム創成専攻 社会システム数理領域 数理計量ファイナンス講座
2. 人員：助教授 1 名
3. 研究分野等：数理ファイナンス・金融工学、及び関連する確率論 [大学院における数理ファイナンスの講義、基礎工学部共通科目の常微分方程式、複素関数論、フーリエ解析等の講義が担当できる者]
4. 着任時期：2005 年 1 月 1 日以降の早い時期
5. 応募締切：2004 年 6 月 30 日
6. 照会先：〒 560-8531 大阪府豊中市待兼山町 1 番 3 号
大阪大学 大学院基礎工学研究科 システム創成専攻 社会システム数理領域 教授 長井英生
E-mail: nagai@sigmath.es.osaka-u.ac.jp
Tel: 06-0850-6460, Fax: 06-6850-6460

☆ 立正大学 文学部

1. 採用人員：社会学科 教授または助教授 1 名
2. 専門領域：マスコミュニケーション論または社会情報学
3. 担当予定科目：1) 情報社会論、メディアコミュニケーション論、社会学演習を担当できる方 2) 社会調査実習を担当できる方
4. 公募期限：2004 年 7 月 15 日
5. 着任時期：2005 年 4 月 1 日
6. 照会先：立正大学文学部事務室
Tel: 03-3492-8791, E-mail: ljimu@ris.ac.jp
立正大学文学部社会学科（主任）
Tel: 03-5487-3306, E-mail: motizuki@ris.ac.jp
URL: <http://bungaku.ris.ac.jp/cgi-bin/recruit.cgi>

☆ 東京大学 海洋研究所

1. 採用人員：海洋生物資源部門 資源解析分野 助教授 1 名
2. 公募の趣旨：本部門では、海洋生物資源の生物学的特性、資源の管理、ならびに海洋環境の動態の面から、海洋生物資源の変動機構解明と持続的利用に関する研究を行っている。本公募の資源解析分野では、資源の評価・管理手法の開発、データの統計学的分析に基づく資源評価、海洋生物の個体群動態や保全に関する研究を進めている。本公募では、資源解析学、数理生物学あるいは生物統計学を基礎として、海洋生物の個体数変動や海洋生物資源の持続的利用に関するモデリングあるいは管理・保全に必要な個体群パラメータの推定に関する研究を積極的に推進する研究者を求める。また、本学大学院農学生命科学研究科の担当教官として大学院教育にも携わっていただく。
3. 公募期限：2004 年 8 月 20 日（金）必着
4. 照会先：〒 164-8639 東京都中野区南台 1-15-1
東京大学海洋研究所 海洋生物資源部門 資源解析分野教授 白木原國雄
Tel: 03-5351-6517, Fax: 03-5361-6493
E-mail: shirak@ori.u-tokyo.ac.jp
URL: <http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/recruit.html>

会員の著書等

- ☆ 日本数理社会学会監修（編集：土場 学・小林 盾・佐藤嘉倫・数土直紀・三隅一人・渡辺 勉）『社会を<モデル>でみる；数理社会学への招待』，勁草書房，2004年。
- ☆ 盛山和夫『統計学入門』（放送大学教材 1598910-1-0411），財団法人放送大学教育振興会，2004年。

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
（財）日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

和文誌編集委員会では、審査プロセスの迅速化、省力化のため、今後、以下の方針で作業を進めたいと思っていますので、ご協力ください。

例えば、投稿論文の審査プロセスの迅速化を念頭におき、投稿者は編集委員会へ論文のハードコピーを4部提出することになっていたが、ハードコピー（少なくとも1セット）を郵送するとともにPCファイルを電子メールに添えつけ提出することに御協力願います。審査過程も、メールの活用で迅速化したいと思っています。

投稿論文の内容の審査に関しては、重要な点に関して明白な数学的誤謬があったり、多重投稿やアイデアの優先権や著作権に問題がない限り、多少粗削りでも、どこかに時代の先端を切り拓く研究発展への萌芽を持っているものを歓迎したいと思います。また、新たなデータ採集や方法論の報告だけでなく、現状の広義の統計関連分野を批判して、新しい時代へ導く木鐸を鳴らす檄文も歓迎いたします。

論文送付先

〒106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7
文部科学省統計数理研究所内
「行動計量学」編集委員長 吉野諒三
e-mail: yoshino@ism.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒152-8552 目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学 大学院社会理工学研究科
日本行動計量学会欧文誌編集委員長
前川眞一
e-mail: mayekawa@hum.titech.ac.jp

日本行動計量学会会員数

（2004年4月6日現在）

正会員	1024名
準会員	86名
名誉会員	6名
賛助会員	17社

日本行動計量学会 Web ページ

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/index.html>

第32回大会 Web ページ

<http://bio-lab.it.aoyama.ac.jp/bsj2004/>

編集後記

皆様、第32回大会での研究発表の申し込み期限が近付いてまいりました。申し込みを検討中の方は、お早めにお申し込みください。

また、今号には、第32回大会時のチュートリアルセミナーの案内を同封いたしました。特に、若手の研究者の皆様、ぜひとも、参加をご検討ください。

今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書や、関連学会の大会、シンポジウムの案内など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。

会報原稿送付先

皆様からの情報をお待ちしております。

〒274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1
東邦大学理学部情報科学科
菊地賢一 kikuchi@is.sci.toho-u.ac.jp
TEL & FAX: 047-472-1182

題字：林知己夫

会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子